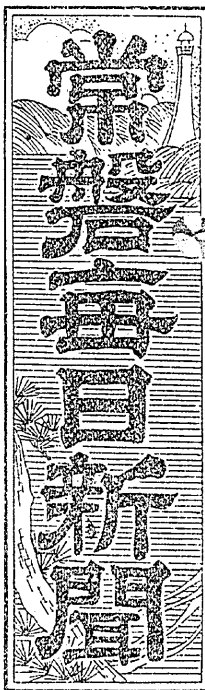


刊夕日五十月三



定価 一部金... 発行所 常磐毎日新聞社 電話 六三〇

ハルピン事變籠城記 (七)

ハルピン日本小學校長 白髮隆孫氏寄

吾等居留民は十日間籠城の忍苦もいっしか消え失せて、一途に吾忠勇なる軍人に對しての感激の情胸に充ち、感涙數行、萬歳を叫び得たものは頑はない子供許りであつた、昨朝食より一食も口にせず、一の假睡さへ許されず、髪は延び鬘は蓬し、硝煙に燻りたる顔は石炭苦力の其儘で殊に昨夜は近來に稀なる低温零下實に三十餘度其曠野に立ちて苦戦の状況を物語る吾軍人の働きこそ真に神の働きにして、鬼神を泣かしむるばかりである。

吾等居留民は十日間籠城の忍苦もいっしか消え失せて、一途に吾忠勇なる軍人に對しての感激の情胸に充ち、感涙數行、萬歳を叫び得たものは頑はない子供許りであつた、昨朝食より一食も口にせず、一の假睡さへ許されず、髪は延び鬘は蓬し、硝煙に燻りたる顔は石炭苦力の其儘で殊に昨夜は近來に稀なる低温零下實に三十餘度其曠野に立ちて苦戦の状況を物語る吾軍人の働きこそ真に神の働きにして、鬼神を泣かしむるばかりである。

彈丸血雨の中に奮戦力闘した吾將士が入城し各避難所に到着するや第一に口走つた言葉は何であつたでせうか？

吾等居留民は十日間籠城の忍苦もいっしか消え失せて、一途に吾忠勇なる軍人に對しての感激の情胸に充ち、感涙數行、萬歳を叫び得たものは頑はない子供許りであつた、昨朝食より一食も口にせず、一の假睡さへ許されず、髪は延び鬘は蓬し、硝煙に燻りたる顔は石炭苦力の其儘で殊に昨夜は近來に稀なる低温零下實に三十餘度其曠野に立ちて苦戦の状況を物語る吾軍人の働きこそ真に神の働きにして、鬼神を泣かしむるばかりである。

「日本人は皆無事でしたか？」
「一語であつた、何といふ有難い貴い言葉でせう、此言葉こそ陛下の御命令に依つて進軍する軍人でなくては如何して出ませうか？吾等の聴く此一言は、陛下即ち大父君の吾等赤子を思召し賜ふ御聲そのものであつたのだ、誰が此言葉を耳にして感激せぬものがあるらうか？」

吾等居留民は十日間籠城の忍苦もいっしか消え失せて、一途に吾忠勇なる軍人に對しての感激の情胸に充ち、感涙數行、萬歳を叫び得たものは頑はない子供許りであつた、昨朝食より一食も口にせず、一の假睡さへ許されず、髪は延び鬘は蓬し、硝煙に燻りたる顔は石炭苦力の其儘で殊に昨夜は近來に稀なる低温零下實に三十餘度其曠野に立ちて苦戦の状況を物語る吾軍人の働きこそ真に神の働きにして、鬼神を泣かしむるばかりである。

去る二十六日より昨日まで十一日間の籠城騒ぎに打ち替りて昨夜の静けさ、心安けさ、邦人もロシア人も亦多くの支那人も四十餘萬の大衆は皇軍武威に浴し太平の夢を結んだ。
十一日間の籠城生活、一日一日と疲れ行く義勇隊員の戦闘力瘦せ行く婦女子、自由を缺く子供は四疊半に十八人も收容し、十餘日間も入浴出来ず、着の身、着の儘の悲惨の生活も昨夜の皇軍入城と共に、冬まだ寒しと雖も、春の心地す、吾等同胞は昨日まで不眠不休不安に攻められて綿の如く疲れ切つた体も昨夜の熟睡で全く恢復老いも若さも専ら吾皇軍の歡待に餘念なし曩きにチチハルに入城の時煙草、酒... 等物資乏しき苦しさ體驗をなめたる吾將士等も此物資豊富なるハルピン、異國情緒なる此ハルピンに入城して同胞の温き歡迎に會ひ満悦の色を添へた。

高月會 三月例会 (一)
蛙の子 耕影
濁り江に浮く苔青し蛙の子 閑月
うよよとお玉群れるる田尻かな 一夢
池尻の淀に陽のさす蛙の子 胡生
長き藻の根に葉につどふお玉かな

堂々... 斯界の群を抜く セリザワタクシ！
最高級車プロモス號増車致しました
何卒御用命の程御願ひ致します
電話三九五番

耳鼻咽喉科専門
氣管食道科
平南町 (電話一七〇番)
大和田醫院

度量衡、計量器、吸入用酸素、酸素吸入器
關内藥局
電話四〇番

玉屋洋品店
平町田町通電話六五六番

正確な時計
お客様本位の...
好適の眼鏡
平一常盤屋時計店

安い！良い！
御裁縫用具が
澤山入荷致しました
田町 ハシモトヤ糸店

父竹太郎儀病氣加療中の處十三日午後十時四十分死去致候に付此段謹告仕候 早々
追て本月十七日午後一時より三時迄自宅に於て告別式執行佛式により中田原墓地へ埋葬致可候
昭和七年三月十四日
石城郡錦村
嗣子 金成通
親戚 金成増吉
總代 安島重三郎
友人 古川傳一
總代

頻々たる 平の火災

折角の金馬簾が

フイになる

初年の早い年は火が早い……とはよく耳にする言葉であるが平町では近々三ヶ月ばかりの間につゞけざまに三度も火事騒ぎを演じたので、之は初午の早いためだらうと

全町民は 御幣を擔ぎ廻つて大騒ぎをしてゐる。

殊に過般の六町目の火事といひ今回の才樋小路の火事と言ひ原因については何れも不審をいだかれてゐるので各區青年分團或は火防組では再び夜廻りを始めることになつたが、一方平消防

組では、数年 火事騒ぎ がなかつたので今年金馬簾一條といふところであつたが、つゞけざまの火事でそれがフイになり井上組頭初め幹部連中悲觀してゐる

高久院長 平町田町 病氣全快 高久病院 長高久氏は悪性の感冒に襲はれ永らく療養中であつたが幸ひにして全治し健康舊に復した爲め従來通り診療に従事して居る

呼び物の平小唄 藝妓連が急稽古

平藝妓屋組合にては品澤及び眞佐の家の女將が平小唄の曲譜及び鳴物舞踊等を仕込んで歸平したので昨日から本日に掛けて平藝妓が總出となり谷口樓に藝集急稽古を勵み花時の呼び物となすべく大意気込みである

赤井村が鐵骨

火の見を建設

石城郡赤井村第二部消防組では鐵骨構建設案が具体化

娘を連れて 宿料を踏倒す 平町南町旅人宿伸スヒ方へ昨年十二月廿五日より札幌鐵道局員と稱して宿泊せる北海道留崩郡鬼鹿村生れ水本伊之助(三)娘愛子(一)の兩名は一月十日富岡迄處用

し去る十日の陸軍記念日より同部落西小川田館の二ヶ所に建造すべく決定した

偽名した 老盜賊

餘罪も自白す

月廿七日より本年二月八日迄の間三回に亘り窃取したる本籍南會津郡伊地村大字只見字田中千二百十二番地目下住所不定前科三犯目黒平三郎(三)は昨日窃盜罪として起訴され直ちに午後二時より平區裁判所に於て中島判事係り山本檢察官立會の下に公判開廷事實訊問をなした追て證據調を爲し判決言渡しは近日中である

自稱耶麻郡駒形村生れ無職小林慶次郎(三)は昨十四日午前九時頃南町裏の新川改修工事場より印半天ヂヤケツ等を窃取し平署員に檢舉されたが取調への結果右の原籍姓名は眞赤な偽りで耶麻郡奥川村大字飯澤字小屋生れ矢部寅治(三)と云ふ前科三犯の強か者で昨年十二月頃から小名濱江名等で五件の窃盜を行つて事を自白した

老盜賊

弓道試験 階級試験

平署申込受理

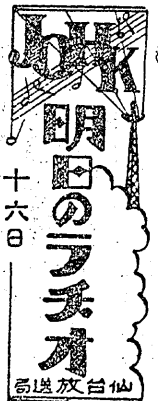
大日本武徳會福島支部の弓道の階級試験は四月三日福島支部弓場に行はれるので平署管内武徳會員中の希望者は受験料を添へ四月二日頃迄に平署へ申込され度いと

念入りの 自轉車窃盜

自轉車窃盜

十三日正午頃石城郡草野村驛前某自轉店を訪れた労働者風の男が新品の自轉車及びリヤカーを賣込まんとして居るのを駐在所員が怪しみ取調ると茨城縣海道町生

れ無職林藤吉(三)と云ひ去月上旬石城地方へ流れ込んだが食に窮して二月廿一日高久村字下高久の精米業猪狩庄一方から時價三十圓の自轉車を窃取した足で更ら



朝氣豫天

今晩は北西の風曇り明日は北西の風晴

今晩の部

- 後六、〇〇(子供の時間) 童話劇「シユリアス・シーザ」BKコードモサークル
- 後七、三〇 趣味講演「演劇と時代相」仲木貞一
- 後八、〇〇 新内「關取千兩帳」稲川内の段 淨瑠璃富士松綱大夫 三味線 富士松龜三郎
- 後八、三〇 映畫物語「ドレイダ・ホーン」松山王葉

明日の部

- 前一、〇〇、三〇 家庭講座「家計簿記」(五)大原信徳
- 後〇、〇〇、五〇 ジャズ(六) 柳三男
- 後九、〇〇 浪花節「噫肉彈三勇士」宮川松安

虎眼検査變更

昨報の平町本年度壯丁のトラホーム検査は十八日午前九時より町役場に行はれる筈であつたが町役場の都合で左の兩日に變更された

カルタの競技 来る二十日に

平町のカルタ愛好者に依つて此程組織された平カルタ俱樂部では創立第一回の關東北カルタ競技會を来る廿一日正午より藤田女學校に開催するが會費三十錢を以て一般希望者の飛入参加を歓迎すると

平職業紹介所報告

- 求人 廿五才以下 尋卒 給料面談 (四倉町某)
- 女中 卅才迄 尋卒 月十圓 (東京市某)
- 出前持 廿才前後 尋卒 給料面談 (平町某)
- 旅館女中 四五才迄 月五圓位 (双葉郡富岡驛)

商 品 券

金額の多少に不拘調 製致します 平町南町 鳥卵商 鳥 菊

誠に便利な

- 求職之部
- 雑夫 五才 高卒 給料面談 (平町某)
- 自動車助手 一九才 高卒 給料面談 (上小川村某)
- 商店雜役 廿八才 尋卒 給料面談 (石川郡某)
- 鑄物工 卅才 尋卒 給料面談 (湯本町某)

幕末剣士

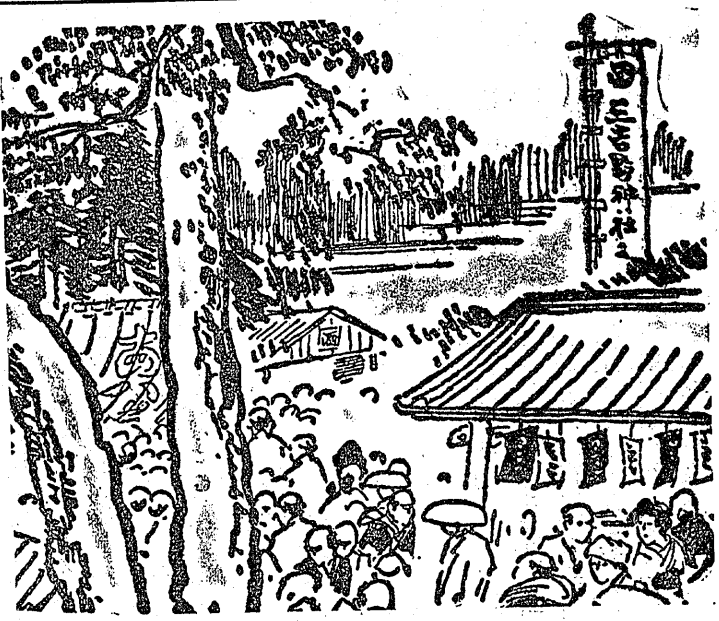
【禁轉載上演及映畫】
悟道軒 圓玉演
近藤 紫雲畫

〔第二席〕
神影流の達人秋山要介(2)
三吉野神社祭禮

秋山要介は酒に溺れて、弟子が来て何とかが口實を設けて剣術を教へぬ様にす、門人は驚いて自然と足が遠くなつた、邪魔を拂つてサバサバしたと要介は盃を手から放した事は無い、スルと山崎倉次郎に井上福松と云ふ門人が揃つて参つた

福「御無沙汰をいたしました」
要「イヤ、山崎に井上とか江戸へ参つたと聞いたが何日戻つた」
福「昨日参りましてございませう」
要「何ぞ土産を持つて来たか、空手では参るまい」
福「左様甚だ、これはつまらぬ物でございますが御覽に入れます」
出したは菓子折

要「これは何だ」
福「羊羹でございます」
要「馬鹿ッ、俺は酒飲みだぜ、その酒飲みの許へ甘い物を贈り物にするとは氣の利ぬ奴だ、何故舗の刺身を土産にいたさぬか」
福「これは恐れ入りましたそんな物を持つて参るゝと



は出来ませぬ」
要「是れから氣を付る、人を見て法を説けといふ事も、氣の利かぬ奴は出世は出来ぬぞ、さア一杯やれ」
福「お相手いたしませう、時に先生、今日は四月の廿五日でございます」
福「併し先生、大分趣好を凝らした飾物が出来て居りますと、それを見るも一興でございます」
要「それも然うだ、ナデハ行つて見るかな」
茲で要介は衣類を着替へ山崎と井上と興に城下に参ると、成る程飾り物が立派に出来て居る、忠臣蔵又は熊坂長範、物見の松、辨慶五條の橋、鬼一法眼の菊畑川越は富貴ですから町並も立派です、家々では在方の客を招き馳走いたし、三味

要「然うだ、昨日は廿四日、さすれば今日は廿五日、去年の今日も四月の廿五日であつた」
福「まづお聞き下さい、三吉野神社の祭禮で大層町は賑ひ居ります、それを見物に参りませう」
要「群集いたし居る所へ参

開け、二三人斬捨ろ」
福「そんな事は出来ませぬ」
要「大層出たなナ、年々人間は殖るばかり、川越の領分は十五萬石、恚う殖えては二三年の内に食物に差支へるであらう、コレコレ其處を除け、邪魔だ」
鐵扇で先きに行く者の脇腹を突く、痛いから片寄りませう、やうやく神段に参つて」
「南無三吉野大明神武運を守護爲し給へ、又危き場所立寄りせ給へ、南無三吉野大明神……痛イッ、誰だ俺の頭を打ち居つたのは、卑怯者ッ、加人飛道具を用ひ居つたナ」
福「先生飛道具ではございませぬ、遠くから投げた賽錢でございます」
要「ウンさうか、コレ井上其處に大分賽錢が落ちてゐる、足下にかけるは勿体ない、イヤ、拾つて賽錢箱に入れるには及ばない、懐中へ入れて置け」
倉「そんな事は出来ませぬ」
要「アハ、ハ、ハ、南無三吉野大明神、茲兩三年の内に危き場所に出遇ふやうに守護爲し給へ、武運長久、國家動亂……さア戻るかな、一除け」
人々を押分け、鳥居前まで来た時に井上福松が

福「先生何處ぞへ参つて一口やりませう」
要「酒を飲むは宜いが、貴様は女の居る所へ伴れて行くから叶かん、俺は酒は好

平新川町十九 木村病院

電話一六四番

婦人科 院長 木村寅次郎
産人科 醫學士 松永憲一
内臓外科 整形外科

眼鏡特賣 高級レンズ

獨逸エーゼンネ光學工場製
ブントロヒ 特價 三圓五十錢
舶來生地メニスレンズ 一圓より
近視用 三圓より
三稜鏡 三圓より
學生向ニツケル(三十錢) 實用枠セル巻より
其他最新型各種 特價提供
醫家の處方に依り眼鏡親切に調整
見習店員入用十四五歳位

谷眼科院御用

安イハ 花博 盛堂

安イハ 式堂
番五三五呼電路小穂搔平

藤沼醫院

平町紺屋町 電話七〇五番

藤田女學校生徒募集

一、本科 五十名
二、裁縫專修科 百名
三、師範科 三十名
四、專攻科 二十名
五、本科裁縫專修科二年補欠編入若干名
(新設)選科(晝間部)五十名
(夜間部)三十名
右希望者ハ至急願書提出ノコト
詳細ハ本校宛學則請求セラルベシ
昭和七年三月 福島縣平町田町
文部大臣 藤田女學校
電話三二八番